

## 初任者研修，10年経験者研修における研修方法に関する研究 － 参加型・体験型研修を導入して －

### 基本研修課

【要旨】学校における課題に適切に対応できる教員を育成するため，効果的な研修内容，研修方法の在り方が問われている。初任者研修，10年経験者研修で，今年度を実施した「参加型・体験型研修」について，受講者の意識，評価等を調査することで，今後の研修のあり方や方向性を探りたいと考えた。「参加型・体験型研修」の導入が，受講者の自発的・主体的な研修意欲を喚起し，協働性や問題解決能力を育むとともに，研修内容に具体性や実現性をもたらすことを，本研究を通して明らかにしたい。

【キーワード】参加型・体験型研修，自発的・主体的な研修意欲の喚起，協働性，問題解決能力，具体性，実現性，資質能力の向上

### 1 はじめに

学校教育の成否は，教育に直接携わる教員の資質能力に負うところがきわめて大きい。日々変化，成長する子どもの教育に携わり，子どもの可能性を開く創造的な職務に就く教員には，常に研究と修養に努め，専門性の向上を図ることが求められている。また，変革と混迷の時代であり，国際競争の時代といわれる現代社会にあって，教員には，不断に最新の専門的技術や指導技術等を身に付けることがいっそう強く求められている。

そのような状況のもと，和歌山県教育センター学びの丘（以下「教育センター学びの丘」という）では，本県教育委員会の重点施策に基づき，研修，調査・研究，教育相談等の事業を通して，教職員としての使命を自覚させるとともに資質能力の向上を図ることによって，本県教育の充実に努めている。

基本研修課では，初任者研修，5年経験者研修，10年経験者研修，幼稚園研修等の企画・運営を担当している。これらの研修の在り方については，教員の自発的・主体的な研修意欲を喚起し，キャリア開発や校内（園内）における研修との連携を図りながら，ライフステージに応じて教育課題に適切に対応できる資質能力の向上を図る研修の方向性を探究しているところである。

企業における研修では，実に多種多様な研修技法によって研修がなされており，それらが商品化されている。これに対し，教員研修に関しては，従来から講義型・知識注入型の研修が主流となってきた経緯がある。

平成11年12月の教育職員養成審議会第三次答申において，各研修における内容や方法等についての見直しの方向性が示されている。研修方法の問題点及び改善の方向について，初任者研修では，「…参加型・体験型研修，課題研究・討論などの課題解決的な研修を多く取り入れるなど，研修実施者において，研修カリキュラムをより魅力的なものとするよう工夫すること ※1」とあり，また，教職経験者研修でも，「…可能な限り参加型・体験型研修を取り入れることが必要である ※1」という提言がなされ，いずれにおいても「参加型・体験型研修」がキーワードとなっている。

この「参加型・体験型研修」すなわち、「一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者自ら参加・体験して共同で何かを学びあったり、創り出したりする学びと創造のスタイル ※2」について、受講者がどのような意識をもって取り組んだか、どのように評価をしているか等を調査し、今後の効果的かつ有意義な研修方法の在り方を探ることで、教員の資質能力の向上に資するものと考え、本研究テーマとした。

## 2 初任者研修

### (1) 本県における初任者研修

初任者研修は、「新任教員に対して、教育公務員特例法第23条の規定に基づき、現職研修の一環として、1年間の研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得させること」（平成17年度初任者研修実施要項）を目的として実施している。

平成17年度の対象教員は、小学校32人、中学校22人、高等学校36人、盲・ろう・養護学校16人の合計106人であり、校外研修25日及び校内研修300時間の研修を実施した。校外研修は、全校種の教員に対して共通の研修を行い、一部の研修は、県内を二分し、紀北の部及び紀南の部として2カ所で同一内容の研修を実施した。

平成17年度における校外研修（教育センター学びの丘が計画するもの）の実施内容及び方法は、表1のとおりである。

表1 平成17年度初任者研修における研修内容一覧

研修名	研修内容及び方法		
	講義型	参加型・体験型	
		体験実習等	演習・協議等
4月研修	○教育長講話 ○本県の教育について ○教員としての心がまえ ○初任者研修について		
5月研修	○教員の服務 ○危機管理 ①ソーシャルスキル ②子どもの健康・安全		○危機管理②「子どもの健康・安全」において、ブレインストーミングやロールプレイを取り入れた。 ○研究協議
6月研修	○授業研究① 「指導と評価の一体化」		○学習指導案の作成 ○研究協議
7月研修①	○危機管理 ③生徒指導の実際 ④学級経営の実際		○危機管理④において、ワークショップ形式を一部実施した。 ○ケーススタディ
7月研修② (宿泊研修) 高野山 2泊3日	○高野山と世界遺産 ○高野山の自然 ○人権教育		○教育相談 ○人権教育において、ワークショップ形式を一部実施した。 ○実践交流①②
8月研修①	○特別支援教育について ①軽度発達障害(小・中・高) ②障害児の福祉(特)	○救急法の理論と実際	
8月研修②	○授業研究② 「授業改善」		○評価演習 ○研究協議
11月研修 (小・中・高)	○本校の教育について	○養護学校体験実習	○研究協議
12月研修(特)	○施設概要	○社会福祉施設実習	○研究協議
1月研修	○授業研究③ 「学習評価」		○課題研究発表 ○学習評価について
2月研修	○「いま、学校・教員に求められているもの」 ○1年間を振り返って		○自己評価について(評価演習)

研修内容に参加型・体験型研修を含むものとして、授業研修(研究授業・研究協議)をはじめとして、養護学校体験実習や社会福祉施設体験実習がある。また、課題解決

的な研修内容を含むものとして、実践交流（7月研修②宿泊研修）、「学習指導案の作成」「評価演習」「学習評価について」等がある。

## （2）参加型・体験型研修の実際

### ① 6月研修「学習指導案の作成」

午前の部では、「授業研究① 指導と評価の一体化」について、大学教授が講義を行った。午後の部では、当センター指導主事が「学習指導案の意義と様式」について講義した後、校種別に5～6人のグループに分かれ、学習指導案作成に取り組んだ。初任者は、各自持参した教科書、学習指導要領等の資料を用いて、本時案（細案）を作成した。小グループ単位での研修は初めてであり、開始当初は、各人が黙々と課題に取り組む状況にあったが、徐々に相談し合う姿が見られるようになってきた。

受講者アンケートには、「一人で考えるより、多くのアイデアを交換しあうことで、自分自身の技術や知識が広がったように思う」等、学習指導案の作成という共通の課題に対して、初任者同士が考えを共有し合うことの意義を感じたという感想が多く寄せられた。しかし、中学校や高等学校の初任者の中には、担当教科が共通でない場合もあり、教科に関する専門的事項について、他の初任者との学び合いが不十分になる状況が見受けられた。



図1 学習指導案の作成

### ② 7月研修②（宿泊研修）「実践交流」

7月下旬、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として著名な霊場「高野山」において、2泊3日の宿泊研修を実施した。人権教育や教育相談に関する講義及び演習の他に、「高野山の自然」「高野山と世界遺産」など、本県の歴史、文化、風土等の理解を深める研修を行った。なお、「実践交流」は、夕食後に実施し、自由参加の研修とした。校種及び教科ごとに5～6人のグループを作り、各自の教育実践について討議や情報交換を図った。宿泊研修では、2泊3日の共同生活を通して、初任者相互の交流が、あらゆる場面で見られた。例えば、「実践交流」は、堅さもとれ、和気藹々とした雰囲気でありながらも、真剣に話し込む様子が見られた。

受講者アンケートでは、「宿泊研修のなかで、特に心に残ったのは実践交流でした。一つのことに対して、みんなが真剣に取り組み、（初任者同士の）結束も強くなったし、刺激にもなりました。私自身も、4月以来子どもから逃げてしまいそうになる時も正直あったのですが、これからもっと子どもと向き合って、しんどくても、諦めずに乗り越えていく強さを持ちたいと感じました。これからの研修でも、実践交流の時間を増やしていただきたいです。同じ立場の先生方から日常的な悩みを聞き、話し合い、それに対して指導主事の先生からアドバイスをいただけるのは、私たちにとって、とても貴重な時間です（小学校教員）」等、満足度の高さが伺われる感想が寄せられた。

### ③ 授業研修

各校種ごとに、9月から授業研修を実施した。授業研修は、教育センター学びの丘が県内25校の研修実施校を指定し、実施校において、初任者の研究授業、校長講話、研究協議を基本的な内容として実施するものである。初任者は、県内の地方別

に設定された実施校において、3日間の授業研修を受けるものとしている。(ただし、盲・ろう・養護学校の初任者は、2日間である。)さらに、研修Bとして、異校種の授業研修に1日出席することを必修としている。したがって、各実施校における研修出席者は、同校種及び異校種の初任者である。

研修出席者は、研究授業を参観後、研究協議を行った。研究協議において、全出席者数や同校種初任者と異校種初任者の人数割合、研究授業と出席者の担当教科等を勘案して、1グループあたりの人数やグループ構成についての工夫を行った。

A中学校における授業研修では、フリーカード法を活用した授業参観及び研究協議を行った。フリーカード法とは、水越敏之氏が、川喜多二郎氏のKJ法にヒントを得た授業研究の手法である。授業参観者は、付箋紙に、授業の中で生じている事柄を時刻とともに書き込んでいく。留意すべき点は、感想や抽象的な事柄ではなく、あくまでも具体的な事実を簡潔に記すことである。研究協議では、時間の経過にしたがって付箋紙を模造紙に貼り付け、研究授業で見られた事実を机上に再現するのである。学校における授業研究会でも普及しつつある方法である。



受講者アンケートでは、「フリーカード法を初めて体験して、研究協議の時に視点が明確になった。また、付箋紙に書いてもらうことで、授業者にとっても、授業の反省や改善につながると

図2 フリーカード法を活用した研究協議

思う。研究授業において、有効な方法だった。(中学校教員)」「本日の研究協議は、とても充実した協議であった。普段は、他の人が同じ意見を言えば、もうやめておこうとか、話すのを控えることもあるが、事実だけを書き、後に、その意味を協議するので、とても話しやすかった。また、授業の流れを視覚的にとらえることができるので、授業のヤマや重要なところが明確になった。(中学校教員)」等の感想が寄せられた。

### (3) 初任者研修受講者アンケートの結果より

#### ①実施について

##### ア 目的

研修実施者として、研修成果に関するアンケートを実施し、研修の効果等を適切に評価・分析することにより、今後の研修内容の改善・充実を図る。

##### イ 実施期日

平成18年1月5日(木)(1月研修 紀南の部)

平成18年1月6日(金)(1月研修 紀北の部)

##### ウ 実施対象

平成17年度初任者研修対象教員 106人

##### エ 実施方法

初任者研修1月研修(紀南の部)および(紀北の部)において、受講者に本趣旨を説明したうえでアンケートを実施し、閉講時に回収する。

オ アンケート様式（図3参照）

「学校における課題解決に役立った」等、7つの観点について、平成17年度初任者研修における研修内容から、役立ったと考えるものを、それぞれ3項目選択させる。

カ 回収率 100%

② 結果概要

図3に、受講者アンケートの様式及び集計表を示す。参加型・体験型研修として実施したものを  で表示した。

○ 平成17年度 初任者研修 受講者アンケート（様式及び集計）

学校名	学 校	氏 名	観 点						
初任者研修は、新任教員の皆さんに、教育公務員特例法第23条の規定に基づき、現職研修の一環として、1年間の研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得ることを目的として行われる研修です。  A～Fのそれぞれの観点について、もっとも役立った研修内容を下の1～27から <u>3つ</u> 選び、○を付けてください。			A 教員としての使命感を養うことに役立った	B 職務に対する意欲向上に役立った	C 専門的な知識を深めることに役立った	D 学校における課題解決に役立った	E 授業等における指導力の向上に役立った	F 視野を広げることに役立った	
			項 目	研 修 内 容					
4月	1	本県の教育について	37	10	1	0	0	3	
	2	教員としての心がまえ	86	30	0	1	1	0	
	3	初任者研修について	17	15	0	0	0	0	
5月	4	危機管理①「子どもの健康・安全管理」	16	5	4	36	2	1	
	5	危機管理②「教員のソーシャルスキル」	10	18	11	21	5	1	
	6	教員の服務について	48	24	4	2	1	0	
6月	7	授業研究① - 指導と評価の一体化 -	2	12	30	12	39	2	
	8	演習 - 指導案作成 - (枚種別)	2	7	17	8	35	2	
7月①	9	危機管理③「生徒指導の実際について」	19	13	7	40	3	0	
	10	危機管理④「学級経営の実際について」	3	10	8	36	7	0	
	11	ケーススタディ - 生徒指導・学級経営の実際 -	8	13	8	33	5	2	
7月② (宿泊研修)	12	人権教育について	10	5	15	10	1	5	
	13	高野山と世界遺産について	0	1	7	0	0	40	
	14	高野山の自然	0	1	7	0	0	20	
	15	教育相談	7	9	18	19	2	5	
	16	実践交流④	5	29	5	19	17	19	
	17	宿泊研修計画 宿泊研修のまとめ	1	4	0	0	0	3	
8月①	18	特別支援教育について「軽度発達障害」(小中高)	0	1	30	9	2	5	
	19	特別支援教育について「障害児の福祉」(特)	1	3	14	1	0	4	
	20	救急法の理論と実際	9	1	22	1	1	6	
8月②	21	授業研究②「指導と評価及び授業改善について」	6	13	26	12	48	0	
	22	評価及び授業改善 - 評価演習 - (枚種別)	0	5	10	7	30	2	
授業研修	23	研究授業(参観)及び研究協議等(異枚種を含む)	13	53	30	21	80	29	
11月	24	養護学校体験研修(地方別)(小・中・高)	7	12	12	2	3	67	
12月	25	社会福祉施設体験実習(特)	1	2	4	0	0	10	
校内研修	26	課題研究(5月～12月)	6	14	21	24	34	6	
研修B	27	社会体験活動(夏季の長期休業期間中の2～3日)	3	8	7	1	0	84	

(単位:人)

※ 「○」を付けた項目のなかで、特に役立ったと考える研修内容について、あなたが職務を遂行する際に、どのように生かすことができたか書いてください。

図3 初任者研修受講者アンケート様式及び集計表

ア 教員としての使命感

「教員としての心がまえ」(4月研修)、「教員の服務について」(5月研修)、「本県の教育について」(4月研修)において、教員としての使命感を高めることに役立ったと回答した初任者が多かった。これらの研修内容は、平成17年度の

初任者研修を開講した直後の研修において実施した。この観点においては、参加型・体験型研修として実施したもののうち、13人が「授業研修」を挙げている他は、総じて低い数値である。

#### イ 職務に対する意欲向上

「授業研修」,「教員としての心がまえ」(4月研修),「実践交流」(7月研修②宿泊研修)において、職務に対する意欲の向上に役立ったとする回答が多かった。特に、「授業研修」は、半数が役立ったと回答している。

#### ウ 専門的知識

「授業研究① ー指導と評価の一体化ー」(6月研修),「授業研究② ー指導と評価及び授業改善についてー」(8月研修②),「授業研修」,「特殊教育について『軽度発達障害』」(8月研修①)において、専門的な知識を深めることに役立ったとする回答が多かった。ただし、専門的知識の深化では、役立ったとの回答が各研修内容に広く分散している傾向が見られる。また、この項目においても、30人の初任者が「授業研修」を挙げている。

#### エ 学校における課題解決

「危機管理③『生徒指導の実際について』」(7月研修①),「危機管理①『子どもの健康・安全管理』」(5月研修),「危機管理④『学級経営の実際について』」(7月研修①),「ケーススタディ」(7月研修①)の順に、学校における課題解決に役立ったとする回答が多かった。「危機管理①」及び「危機管理④」では、講義を主体としながらも、一部ワークショップ形式を取り入れた研修であった。「ケーススタディ」は、協議を通して課題解決を図ることをねらった研修として実施した。

#### オ 指導力の向上

「授業研修」,「授業研究② ー指導と評価及び授業改善についてー」(8月研修②)「授業研究① ー指導と評価の一体化ー」(6月研修)の順に、授業等における指導力の向上に役立ったと回答した初任者が多かった。

#### カ 視野の拡大

「社会体験活動」,「養護学校体験研修」(11月研修),「高野山と世界遺産について」(7月研修②)の順に、視野を広げることに役立ったとする回答が多かった。

#### キ 自由記述

特に役立ったと考える研修内容を自由記述させると、45%の初任者が授業研修を挙げている。これに授業研究①～③の22%を加えると、合計67%の初任者が、授業に関する系統的な研修が職務に役立ったと回答している。

### ③考察

参加型・体験型研修の一つとして実施した授業研修に対して、初任者は、「職務に対する意欲向上」「専門的知識」「指導力の向上」において役立ったとする回答が多かった。初任者にとっての授業研修は、指導力の向上や専門的な知識を深めることのみならず、職務に対する意欲を向上させていることがうかがえる。

## (4) 今後の課題

本県の初任者研修の実施にあたって、参加型・体験型研修を取り入れ、初任者が主体的・能動的に取り組み、併せて初任者同士が切磋琢磨する場を提供することを目指してきた。このことによって、初任者が他者と協働し、実践的指導力を向上させることに寄与するとともに、職務に対する意欲の向上にも、研修効果を及ぼすことができ

ると考える。

今後の課題として、5～6人の小グループを編成する際に、協議の目的に応じた編成について、さらに工夫を図ることが挙げられる。また、初任者の経験や力量に応じて、適切な役割をグループの中で果たしていけるよう、協議の進め方等についても留意すべきである。

### 3 10年経験者研修

#### (1) 本県における10年経験者研修

本県では、研修体系の中で、10年経験者研修の目的を課題解決力の育成と位置づけて実施している。校外研修は、必修研修として8日（共通研修3日，教科指導研修3日，生徒指導等研修2日），選択研修として10日（初年度7日，次年度3日）の計18日（初年度15日，次年度3日）とし、2年間の継続研修としている。

10年経験者研修では、自己の経験、実績を振り返ることによって、自らの弱点、苦手分野、得意分野を確認するとともに、自己の実践過程等を直接の研修対象として、より一層個々の教員の力量アップを図ることをねらいとしている。このことから、必修研修では、できる限り参加型・体験型研修の方法を取り入れて実施している。このうち「共通研修2」「教科指導研修1・2・3」「生徒指導研修1・2」の6日は紀北会場と紀南会場に分けて実施している。

今回、初年度の受講を終えた10年経験者研修対象者に対して、参加型・体験型といった研修形態についてアンケートを行い、その回答等をもとに考察した。

#### (2) 研修内容について

各研修内容・研修の方法については表2のとおりである。

表2 平成17年度10年経験者研修内容一覧

研修名	研修内容	参加型・体験型研修の方法	
共通1	本県の教育の現状と課題 10年経験者研修に向けて 自己認識を深める ・講義および演習	ふり返りシートの記入	小グループでの発表
共通2	教育法規と教員の服務 ・講義および演習	小グループによる事例に基づく法規演習	
	新しい時代に対応した学校改善を目指して —学校評価を中心に— ・講義		
共通3	コーチング 講義とグループ演習 キャリアデザイン 講義とグループ演習	1対1による傾聴スキルトレーニング ワークシートによる交流	
教科指導1	教科等における指導と評価の工夫改善(小・中・高) ・講義とグループ演習 特別支援教育についてⅠ・Ⅱ(盲・ろう・養) LD、AD/HD、高機能自閉症児の理解(盲・ろう・養) ・講義及び演習	授業づくりの工夫に関する評価基準等 ワークシートによる交流(小中高)	診断テスト・チェックリスト法 (小中高)
		小グループによる事例研究 (盲ろう養)	
教科指導2	授業改善プランの作成と具体化(小・中・高) ・講義とグループ演習 個別の特別支援計画の作成Ⅰ・Ⅱ(盲・ろう・養) ・講義とグループ演習	授業案の作成と発表(小中高) 発表と協議(盲ろう養)	各自で計画立案、少人数で報告、全体で発表(小中高)
教科指導3	学習指導・評価の実践事例交流Ⅰ・Ⅱ(小・中・高) ・講義とグループ演習 教科指導研究の成果の発表Ⅰ・Ⅱ(盲・ろう・養) ・講義とグループ演習	小グループによる実践交流(小中高) 全体での実践交流(盲ろう養)	
生徒指導等1	少年期・思春期の発達と教育・子育て 生徒指導上の諸問題と取組の課題 ・講義及び演習	アイスブレーキング、自己紹介、他者紹介、構成的エンカウンター	
生徒指導等2	事例研究Ⅰ・Ⅱ ・講義とグループ演習	小グループによる事例研究(紀北)	ポスターセッション(紀北)
		インシデントプロセス法(紀南)	

※生徒指導等研修2のみ、紀北会場と紀南会場で演習の方法を変えている。

紀北会場と紀南会場での対象人数については表3のとおりである。なお、養護学校には盲学校、ろう学校の教員を含んでいる。また、教科指導研修の養護学校の部では、会場を分けずに実施した。

表3 会場別校種別人数

人数	紀北	紀南	合計
小学校	28	14	42
中学校	21	7	28
高等学校	25	13	38
養護学校	13	4	17
計	87	38	125

(3) アンケートの結果と考察

①実施について

ア 目的

10年経験者研修で取り入れた参加型・体験型研修について、研修効果の視点から、受講者自身が講義型研修に比べて効果的であったと認識しているかどうかを検証する。

イ 実施方法

アンケート用紙は、教科指導研修3(1月)の終了時、受講者に趣旨を説明し配付した。回収は共通研修3(2月)実施日に行った。

※ 共通研修3は実施日が2月初旬のため、アンケートに含めていない。

10年経験者研修は、教員の個々の能力、適性等に応じた研修を行うことにより、教員としての資質の向上を図り、課題解決力の育成を目指しています。このため、選択研修を多く設定するとともに、校外、校内研修により、長所の伸長、弱点の補強、課題解決力の育成を図ってきました。研修形態においても、参加型・体験型の研修を多く取り入れています。この参加型・体験型の研修について、研修効果の視点から、みなさんの考えをお伺いします。

▼ 評価の欄に、次のア～エから一つ選び、記号を書いてください。また、それを選んだ理由も簡潔に書いてください。

ア 効果的であった イ 概ね効果的であった ウ あまり効果的でなかった エ 効果的でなかった

図4 アンケートの説明部分

②結果と考察

アンケートの集計によると、受講者全体では、「効果的であった」「概ね効果的であった」との回答は、どの研修においても8割を超えており、参加型・体験型研修のについて、効果的と認識している。特に、生徒指導等研修2においては、それぞれが抱えている事例による事例研究(紀北)や、提示された事例による事例研究とインシデントプロセス法による事例研究(紀南)に、養護学校を除く校種で、ほとんどの受講者がその効果を認めている。

また、教科指導研修においては、小学校と養護学校の受講者が特にその効果を認めている。効果的であった(ア・イ)と回答した主な理由は、「他の受講者の意見が聞くことができている刺激になる」「他校種との交流で視野が広がる」「校種や教科の共通点があると話し合いが深まる」等である。

これに対し、効果的でなかった

表4 アンケート集計

	ア 効果的であった	イ 概ね効果的であった	ウ あまり効果的でなかった	エ 効果的でなかった				
<b>全体</b>	<b>共通1</b>	<b>共通2</b>	<b>教科指導1</b>	<b>教科指導2</b>	<b>教科指導3</b>	<b>生徒指導等1</b>	<b>生徒指導等2</b>	<b>生徒指導等2</b>
ア	34.4%	26.6%	46.3%	31.5%	52.5%	38.8%	49.4%	41.5%
イ	55.2%	57.3%	37.4%	51.6%	36.1%	44.6%	40.7%	53.7%
ウ	10.4%	14.5%	16.3%	14.5%	10.7%	14.0%	9.9%	4.9%
エ	0.0%	1.6%	0.0%	2.4%	0.8%	2.5%	0.0%	0.0%
アイの計	89.6%	83.9%	83.7%	83.1%	88.5%	83.5%	90.1%	95.1%
ウエの計	10.4%	16.1%	16.3%	16.9%	11.5%	16.5%	9.9%	4.9%
<b>小学校</b>	<b>共通1</b>	<b>共通2</b>	<b>教科指導1</b>	<b>教科指導2</b>	<b>教科指導3</b>	<b>生徒指導等1</b>	<b>生徒指導等2</b>	<b>生徒指導等2</b>
ア	28.6%	31.0%	47.6%	38.1%	52.5%	50.0%	50.0%	71.4%
イ	64.3%	50.0%	45.2%	50.0%	42.5%	38.1%	46.4%	28.6%
ウ	7.1%	19.0%	7.1%	11.9%	5.0%	9.5%	3.6%	0.0%
エ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%
アイの計	92.9%	81.0%	92.9%	88.1%	95.0%	88.1%	96.4%	100.0%
ウエの計	7.1%	19.0%	7.1%	11.9%	5.0%	11.9%	3.6%	0.0%
<b>中学校</b>	<b>共通1</b>	<b>共通2</b>	<b>教科指導1</b>	<b>教科指導2</b>	<b>教科指導3</b>	<b>生徒指導等1</b>	<b>生徒指導等2</b>	<b>生徒指導等2</b>
ア	35.7%	33.3%	46.2%	25.0%	53.6%	48.0%	47.1%	30.0%
イ	50.0%	44.4%	34.6%	50.0%	32.1%	40.0%	35.3%	70.0%
ウ	14.3%	22.2%	19.2%	21.4%	14.3%	12.0%	17.6%	0.0%
エ	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
アイの計	85.7%	77.8%	80.8%	75.0%	85.7%	88.0%	82.4%	100.0%
ウエの計	14.3%	22.2%	19.2%	25.0%	14.3%	12.0%	17.6%	0.0%
<b>高等学校</b>	<b>共通1</b>	<b>共通2</b>	<b>教科指導1</b>	<b>教科指導2</b>	<b>教科指導3</b>	<b>生徒指導等1</b>	<b>生徒指導等2</b>	<b>生徒指導等2</b>
ア	39.5%	23.7%	44.7%	21.1%	42.1%	27.0%	54.2%	23.1%
イ	50.0%	63.2%	31.6%	55.3%	39.5%	48.6%	37.5%	69.2%
ウ	10.5%	7.9%	23.7%	18.4%	15.8%	18.9%	8.3%	7.7%
エ	0.0%	5.3%	0.0%	5.3%	2.6%	5.4%	0.0%	0.0%
アイの計	89.5%	86.8%	76.3%	76.3%	81.6%	75.7%	91.7%	92.3%
ウエの計	10.5%	13.2%	23.7%	23.7%	18.4%	24.3%	8.3%	7.7%
<b>養護学校</b>	<b>共通1</b>	<b>共通2</b>	<b>教科指導1</b>	<b>教科指導2</b>	<b>教科指導3</b>	<b>生徒指導等1</b>	<b>生徒指導等2</b>	<b>生徒指導等2</b>
ア	35.3%	11.8%	47.1%	50.0%	75.0%	23.5%	41.7%	25.0%
イ	52.9%	82.4%	35.3%	50.0%	18.8%	58.8%	41.7%	50.0%
ウ	11.8%	5.9%	17.6%	0.0%	6.3%	17.6%	16.7%	25.0%
エ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
アイの計	88.2%	94.1%	82.4%	100.0%	93.8%	82.4%	83.3%	75.0%
ウエの計	11.8%	5.9%	17.6%	0.0%	6.3%	17.6%	16.7%	25.0%



(ウ・エ)と回答した割合が比較的高かったのは、中学校の教科指導研修2、高等学校の教科指導研修1、2などで、2割を超えている。その主な理由では、「時間的なゆとりがなかった」「講義が短くなって残念である」「事例設定の内容を校種に合わせたものにして欲しかった」等となっている。

教科指導研修において、効果的と評価をしているのは、小学校教員では90%前後なのに対し、中・高等学校では80%前後であり、校種により評価に差があることが分かる。

表5 会場別アンケート集計

		紀北の部						紀南の部					
		共通2	教科指導1	教科指導2	教科指導3	生徒指導等1	生徒指導等2	共通2	教科指導1	教科指導2	教科指導3	生徒指導等1	生徒指導等2
小学校	アイの計	85.7%	96.4%	85.7%	96.2%	82.1%	96.4%	71.4%	85.7%	92.9%	92.9%	100.0%	100.0%
	ウエの計	14.3%	3.6%	14.3%	3.8%	17.9%	3.6%	28.6%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%
中学校	アイの計	75.0%	78.9%	81.0%	81.0%	83.3%	82.4%	85.7%	85.7%	57.1%	100.0%	100.0%	100.0%
	ウエの計	25.0%	21.1%	19.0%	19.0%	16.7%	17.6%	14.3%	14.3%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
高等学校	アイの計	92.0%	88.0%	88.0%	100.0%	79.2%	91.7%	76.9%	53.8%	53.8%	46.2%	69.2%	92.3%
	ウエの計	8.0%	12.0%	12.0%	0.0%	20.8%	8.3%	23.1%	46.2%	46.2%	53.8%	30.8%	7.7%
養護学校	アイの計	100.0%	82.4%	100.0%	93.8%	76.9%	83.3%	75.0%				100.0%	75.0%
	ウエの計	0.0%	17.6%	0.0%	6.3%	23.1%	16.7%	25.0%				0.0%	25.0%

会場別の集計によると、高等学校教員では紀北会場で受講した教員の90%前後が効果的と回答しているのに対し、紀南会場では50%前後となっている。

この原因については、受講者が少人数のために生じるグループ編成上の問題が考えられる。つまり、中学校や高等学校教員では、人数の関係上、校種および教科が混合したグループが多くなったことが評価の差として表れている。「効果的でない」と回答した教員のほとんどは、他校種、他教科との交流に学ぶ点はあるとしながらも、協議の深まりが不十分になることを理由に挙げている。特に、実践交流を中心とした教科指導研修3において、紀北会場と紀南会場での高等学校教員の評価の差が大きいのはこのためである。実際、単独の校種で、会場を分けずに実施している養護学校教員では評価が高いことや、担当学年と研究教科を中心にグループ編成している小学校教員の回答でも、会場による差は見られないことから、その原因がグループ編成上の問題であることを示している。



図5 教科指導研修2 (紀北の部)



図6 教科指導研修2 (紀南の部)

生徒指導等研修1の紀南会場において、高等学校教員の評価がやや低くなっている。この評価の主な理由は、アイスブレイキング、自己紹介、他者紹介などのアクティビティに理解を示しているものの、「よく知っている者同士で行ったことで効果が薄れた」「講義の印象が強くアクティビティの印象が弱かった」等であった。

#### (4) 今後の課題

今回のアンケートによれば、受講者は研修方法としては概ね講義型研修より参加型・体験型研修が効果的と認めている。したがって、今後、より効果的な研修を実施するうえで大切になることは、参加型・体験型研修の実施方法を工夫することと考え

る。今回のアンケートや毎回実施している研修後の受講者アンケートの意見も参考に、その改善点を以下の5点にまとめる。

- ①講義とのバランスをより適切に設定すること。
- ②演習計画を精選し、一つの演習に十分な時間をとること。
- ③演習のねらい及び主な流れを明確にし、事前に提示すること。
- ④事例等の設定をできるだけ校種に適したものにすること。
- ⑤グループ編成等を工夫すること。

なお、前述の紀南会場におけるグループ編成上の問題点に対しては、これらの改善点の他に、平成18年度では、教科指導研修3において高等学校の部は同一会場で実施することを計画している。

毎回実施している研修後のアンケートでは、「校種間の意見交流により視野に広がりがもたらされてよかった」という意見もみられ、運営側のねらいが確実に伝わっていると実感している。しかし、10年経験者研修受講者は、教職経験が豊富であるがゆえ様々な悩みも多く抱えており、即効性のある助言や身近な実践例等を求める傾向が強く、同校種での演習を求めていることも確かである。今後、運営側がねらう、視野を広げたり、教育活動の方向性や自己の課題追究への問題提起をめざす研修内容と、受講者の求める個々の課題に即した研修内容とをどのように組み入れていくかが、もう一つの課題である。

#### 4 おわりに

教員一人一人の資質能力は決して固定的なものではなく、教職経験により変化し、成長が可能なものであり、それぞれの職能、専門分野、能力・適性、興味・関心に応じ、その向上が図られることが必要である。使命感、得意分野、個性をもち、学校現場の課題に適切に対応できる力量ある教員として成長していくためには、日々の教育実践や教員自身の研鑽が不可欠であるとともに、教育センター等の果たす役割が大きい。

教育センター学びの丘では、学校において個性や特色のある教育活動を展開するために必要な教員の資質能力の向上を目指し、研修内容・方法の更なる改善充実を進めているところであり、本研究もその一環と捉えている。

今回、初任者研修及び10年経験者研修における参加型・体験型研修の実施及び研究を行うことから、以下のような共通の成果がみられた。

- ①受講者の自ら学ぼうとする姿勢が要求され、参加することによって研修意欲が促される。(自発的・主体的な研修意欲の喚起)
- ②学校現場の日々の授業や指導に関する課題に基づいた研修が可能になる。(具体性)
- ③課題解決に向けて、受講者が経験や知識、専門性を出し合って解決の方向性を探る。(課題解決性)(協働性)
- ④体験・実習・討議等の活動のプロセスにおいて、自ら体得することで研修が実践に生きる内容となる。(実現性)

他方で、参加型・体験型研修を進める際のグループ編成の工夫等、実施にあたっての課題、留意点についても明確になった。これらは、本研究にあたって、受講者アンケートを分析・考察することから得られたものであり、来年度以降の研修運営に生かしていきたいと考えている。

教育センター学びの丘基本研修課としては、常に受講者の「生の声」を大切にしながら、研修の内容・方法について研究しつつ、より効果的かつ有意義な研修の在り方につ

いて探っていきたい。

<引用文献>

- ※1 教育職員養成審議会「養成と採用・研修との連携の円滑化について（第3次答申）」文部省（1999）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/12/yousei/toushin/991201.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/yousei/toushin/991201.htm)
- ※2 中野民夫『ワークショップ－新しい学びと創造の場－』岩波新書（2001）

<参考文献>

- ・独立行政法人教員研修センター『教員研修の手引き 研修の企画・運営 講師のための知識・技術』（2005）
- ・中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について（中間報告）」（2005）
- ・高倉翔，八尾坂修『企画・立案・運営に役立つ初任者研修マニュアル』ぎょうせい（2005）
- ・高橋弘悦「教師の授業スキルの向上を図る授業研究プログラムの開発に関する研究－フリーカード法の活用を通して－」『平成9年度福島県教育センター研究紀要 vol. 27個人研究』 pp121-132（1997）

{	文責	指導主事	古川 眞澄
		指導主事	坂田 和彦
		指導主事	稲田 進彦